「手取川上流崩壊地に関する技術検討会」の概要について

令和３年 12 月１日

委員から以下のような意見がありました。

＜令和３年度現地調査結果＞

・植生の定着及び緑量の増大が確認でき、崩壊地内の土壌化が進んでいるものと考えられる。侵食箇所においても、植生の定着が確認でき、今後も土壌条件が底上げされ植生回復が進行すると思われる。

＜初期緑化目標に対する評価結果＞

・地形及び気象条件が厳しい施工地において、植生の回復が進行していることは、対策工の一定の成果として評価できる。
・コドラート内は木本類の群落高の低下が認められるが、全体としては緑量の増大が認められ、木本類の定着もあり植生の遷移及び回復が順調に進んでいることから、初期緑化目標は達成と判断して良い。

＜施工工種のチェック＞

・概ね施工効果は発揮されていると判断でき妥当と考えられる。
・袋型石詰筋工については、一部消失していることから地形及び流量に耐えうる構造を検討する必要がある。
・ヤナギの散布については、結果として効果は芳しいものではないが、対策工種を試行錯誤したことは意義があり、検証を行い今後の技術開発に活用してほしい。

＜今後の方針＞

・初期緑化目標は、概ね達成していることから、今後は経過観察へ移行することが適当である。
・侵食が継続している箇所においては、部分的に追加施工を行い植生回復の補完が必要である。
・今後もモニタリング調査等により植生の回復状況を観察することが重要である。